

○研究報告書等

(平成 10 年度)

●[内分泌かく乱化学物質の胎児、成人等の曝露に関する調査研究](#)

(星薬科大学薬品分析化学教室 中澤 裕之)

●[内分泌かく乱化学物質の食品、食器等からの曝露に関する調査研究](#)

(国立医薬品食品衛生研究所 斎藤 行生)

●[内分泌かく乱化学物質の水道水からの曝露等に関する調査研究](#)

(国立公衆衛生院水道工学部 国包 章一)

●[28 日間反復投与試験等に関する調査研究 \(OECD テストガイドライン国際共同バージョンプロジェクト\)](#)

(国立医薬品食品衛生研究所病理部 広瀬 雅雄)

●[ビスフェノール A、ゲニステイン等の繁殖影響及び体内動態等に関する調査研究](#)

(大阪市立大学医学部 福島 昭治)

●[ゲニステイン、ノニルフェノールおよびブチルベンジルフタレートサルまたはラットを用いた体内動態試験](#)

(財団法人食品農医薬品安全性評価センター 伊賀 達也)

●[内分泌かく乱化学物質の超高速選別法の開発・検証に関する調査研究](#)

(国立医薬品食品衛生研究所毒性部 菅野 純)

●[繁殖影響、体内動態に関する調査研究](#)

(財団法人食品薬品安全センター 秦野研究所)

(平成 11 年度)

●[内分泌かく乱化学物質の発達期中枢神経系障害に関する実験的研究](#)

(名古屋市立大学医学部分子医学研究所生体制御部門 加藤 泰治)

(平成 10 年度～平成 12 年度)

●[内分泌かく乱化学物質の人の健康への影響のメカニズム等に関する調査研究](#)

(国立医薬品食品衛生研究所 毒性部 井上 達)

●[内分泌かく乱化学物質等、生活環境中化学物質による人の健康影響についての試験法に関する調査研究](#)

(食品薬品安全センター 秦野研究所 今井 清)

●[内分泌かく乱物質等、生活環境中の化学物質による健康リスクの評価における不確実性の解析に関する研究](#)

(国立医薬品食品衛生研究所 化学物質情報部 関澤 純)

●[内分泌かく乱物質等、生活環境中の化学物質による健康影響及び安全性確保等に関する研究\(生活環境中の化学物質の in vitro 及び in vivo エストロゲン様活性検索\)](#)

(日本大学生物資源学部 片瀬 隆雄)

●[内分泌攪乱物質の免疫機能に及ぼす影響に関する研究](#)

(国立公衆衛生院栄養化学部 山崎 聖美)

●[内分泌かく乱物質等の生活環境中の化学物質による健康影響-日本人正常男性の生殖機能に関する総合的研究-](#)

(聖マリアンナ医科大学 岩本 晃明)

●[食品残留農薬検査の超迅速化に関する調査研究](#)

(国立医薬品食品衛生研究所 食品部 佐々木 久美子)

●[ダイオキシン類のヒト暴露状況の把握と健康影響に関する研究](#)

(東京農業大学応用生物科学部 渡邊 昌)

●[ダイオキシン類の汚染状況及び子宮内膜症等健康影響に関する研究](#)

(国立医薬品食品衛生研究所 毒性部 金子 豊蔵)

●[ダイオキシン類の食品経路総摂取量調査研究](#)

(国立医薬品食品衛生研究所 食品部 豊田 正武)

●[ダイオキシン類の排泄促進に関する研究](#)

(福岡県保健環境研究所保健科学部 森田 邦正)

●[ダイオキシン類による健康影響の機構に関する研究](#)

(九州大学薬学部 小栗 一太)

●ダイオキシン類の汚染状況及び子宮内膜症等健康影響に関する研究

(東京大学医学部附属病院分院産科婦人科学教室 堤 治)

●母乳中のダイオキシン類に関する研究

(東邦大学医学部 多田 裕)

(平成 11 年度～平成 13 年度)

●内分泌かく乱化学物質の作用機構に焦点を当てた新しいハイ・スルー・プットスクリーニング法の開発

(国立医薬品食品衛生研究所毒性部 菅野 純)

●食品中内分泌かく乱物質等の発がん修飾作用に関する実験的研究

(国立医薬品食品衛生研究所病理部 西川 秋佳)

●内分泌かく乱化学物質の人の生殖機能等への影響に関する研究

(国立がんセンター研究所支所(臨床疫学研究部) 津金 昌一郎)

●高分子素材からなる生活関連製品由来の内分泌かく乱化学物質の分析及び動態解析

(星薬科大学薬品分析化学教室 中澤 裕之)

●内分泌かく乱物質に対する感受性の動物種差の解明:チトクローム P450 発現を指標として

(静岡県立大学薬学部衛生化学教室 出川 雅邦)

●内分泌かく乱物質の生殖機能と次世代への影響、特に生殖泌尿器系・先天異常の成因に関する疫学的研究

(北海道大学医学部 岸 玲子)

●内分泌かく乱化学物質に関する生体試料(臍帯血等)分析法の開発とその実試料分析結果に基づくヒト健康影響についての研究

(東海大学医学部産婦人科学教室 牧野 恒久)

●フタル酸エステル類及びフェノール類の食品汚染実態及び摂取量に関する調査研究

(国立医薬品食品衛生研究所大阪支所 食品試験部 外海 泰秀)

●内分泌かく乱化学物質の水道水中の挙動と対策等に関する研究

(国立公衆衛生院水道工学部 国包 章一)

●内分泌かく乱物質の小児、成人等の汚染実態および暴露に関する調査研究

(国立成育医療センター研究所 秦 順一)

●内分泌かく乱物質のヒトへの影響評価を指向した試験系の開発

(国立医薬品食品衛生研究所 大野 泰雄)

●内分泌かく乱化学物質の胎児、幼児への影響等に関する研究

(名古屋市立大学医学部 白井 智之)

●ダイオキシン類等の試験・分析の信頼性確保に関する調査研究

(財団法人食品薬品安全センター 柳澤 健一郎)

(平成 17 年度～平成 19 年度)

●化学物質による子どもへの健康影響に関する研究－恒常性維持機構発達の過渡特性に立脚したリスク評価研究－

(国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター総合評価研究室 江馬 眞)

●化学物質による子どもへの健康影響に関する研究

(東海大学医学部 牧野 恒久)

●生体の作用点、特に核内受容体及び関連転写因子群に着目した化学物質の毒性発現機構の解明や毒性予測手法の開発を行う研究

(国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター毒性部 高木 篤也)

●胎児期・新生児期化学物質暴露による新たな毒性評価手法の確立とその高度化に関する研究

(国立大学法人東京農工大学大学院共生科学技術研究院動物生命科学部門 渋谷 淳)

●化学物質感受性の個人差を決定する遺伝子的要因の検索とその作用機構解析

(東北大学大学院薬学研究科 永沼 章)

●核内受容体結合能およびホルモン活性同時測定法による化学物質リスク評価

(九州大学大学院理学研究院 下東 康幸)

●前向きコホート研究による先天異常モニタリング、特に尿道下裂、停留精巣のリスク要因と内分泌かく乱物質に対する感受性の解明

(北海道大学大学院医学研究科 水上 尚典)

●[内分泌かく乱化学物質とホルモン関連腫瘍に関する疫学研究](#)

(国立がんセンターがん予防・検診研究センター 津金 昌一郎)

●[内分泌かく乱化学物質と子宮体がん発生リスクに関する症例対照研究](#)

(東北大学大学院医学系研究科 八重樫 伸生)

(平成 18 年度～平成 20 年度)

●[化学物質リスク評価の基盤整備におけるトキシコゲノミクスの利用に関する研究－反復暴露影響及び多臓器連関性（発達過程を含む）に重点を置いた解析研究](#)

(国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター毒性部 菅野 純)

●[難分解性有機汚染物質（POPs）の胎児期暴露に関する研究](#)

(東北大学大学院医学系研究科 佐藤 洋)

(平成 19 年度～平成 21 年度)

●[高感受性集団に於ける化学物質の有害性発現メカニズムの解明及び評価手法開発にかかる総合研究](#)

(財団法人食品薬品安全センター秦野研究所)

●[形態形成期・思春期などの高感受性期にある集団での核内受容体作動性化学物質等の有害性発現メカニズムの解明及びその評価手法にかかる総合研究](#)

(国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター 井上 達)

(平成 20 年度～平成 22 年度)

●[化学物質の子どもへの健康影響に関するエピジェネティクス評価法の開発](#)

(社団法人有隣厚生会厚生病院 牧野 恒久)

●[受容体アッセイ 4 種からなるヒト核内受容体 48 種すべてに対する化学物質リスク評価スキームの構築](#)

(九州大学大学院理学研究院 下東 康幸)

●[男児外陰部異常症および生殖機能障害と化学物質：個体感受性と暴露量に関するゲノム疫学研究](#)

(国立成育医療センター研究所 緒方 勤)

●前向きコホート研究による先天異常モニタリング、特に尿道下裂、停留精巣のリスク要因と環境化学物質に対する感受性の解明

(北海道大学大学院医学研究科 岸 玲子)

●化学物質の情動・認知行動に対する影響の毒性学的評価法に関する研究-特に遅発性影響の評価系のメカニズム解明による確立-

(国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター毒性部 北嶋 聡)

●情動・認知機能を定量化する包括的な行動毒性試験の構築

(東京大学大学院医学系研究科生命工学センター 掛山 正心)

●化学物質による神経伝達物質受容体を介した精神毒性発現機序の解明および行動評価方法の開発に関する研究

(名城大学薬学部 鍋島 俊隆)

(平成 21 年度～平成 23 年度)

●胎児への食品汚染物質曝露による性未成熟のインプリンティングとその評価法開発

(九州大学 薬学研究科 山田 英之)

●有害作用標的性に基づいた発達期の化学物質暴露影響評価手法の確立に関する研究

(東京農工大学 共生科学技術研究科 渋谷 淳)

●出生コホートによる難分解性有機汚染物質 (POPs) ばく露の次世代影響の検証

(東北大学大学院医学系研究科 佐藤 洋)

●化学物質の胎内ばく露による情動・認知行動に対する影響の評価方法に関する研究

(三重大学医学系研究科 成田 正明)

(平成 22 年度～平成 24 年度)

●ステロイドホルモン受容体に作用する化学物質の構造活性相関に基づく毒性評価システム

(金沢大学医薬保健研究域薬学系 早川 和一)

●化学物質の臨界期曝露が神経内分泌・生殖機能へ及ぼす遅発型影響の機序解明と指標の確立に関する研究

(国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター病理部 吉田 緑)

●[個体の成長期における神経系および肝臓系細胞の機能解析による化学物質の健康影響評価法に関する研究](#)

(国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター薬理部 宇佐見 誠)

●[中枢神経系の発達に及ぼす化学物質の影響に関する試験法の開発](#)

(東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター 藤岡 宏樹)

(平成 23 年度～平成 25 年度)

●[前向きコホート研究に基づく先天異常、免疫アレルギーおよび小児発達障害のリスク評価と環境化学物質に対する遺伝的感受性の解明](#)

(北海道大学環境健康科学研究教育センター 岸 玲子)

●[神経系発生－発達期の化学物質暴露による遅発中枢影響解析に基づく統合的な情動認知行動毒性評価系確立に資する研究](#)

(東北大学大学院農学研究科 種村 健太郎)

(平成 24 年度～平成 26 年度)

●[ヒト多能性幹細胞試験バッテリーによる化学物質の発達期影響予測法に関する研究](#)

(東京大学大学院医学系研究科 大迫 誠一郎)

●[妊娠中の化学物質による、子どもの行動・情動への影響評価に関する臨床的・基礎的・疫学的研究](#)

(三重大学大学院医学系研究科 成田 正明)

(平成 25 年度～平成 27 年度)

●[個体の成長期における毒性メカニズムに基づく新規 in vitro 発達神経毒性評価法に関する研究](#)

(国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター薬理部 諫田 泰成)

●[化学物質の臨界期曝露による生殖内分泌機能の遅発影響に視床下部キスペプチンニューロンの部位特異的变化が果たす役割と閾値に関する研究](#)

(国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター病理部 吉田 緑、高橋 美和)

●新規 in vivo 遺伝毒性試験である Pig-a 遺伝子遺伝毒性試験の胎仔を含めた週齢および性差に関する開発研究

(国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター変異遺伝部 堀端 克良)

(平成 26 年度～平成 28 年度)

●受精卵培養液中のフタル酸類の受精卵及び出生児に対する影響評価研究

(国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター毒性部 相崎 健一)

●前向きコホート研究に基づく先天異常、免疫アレルギーおよび小児発達障害のリスク評価と環境化学物質に対する遺伝的感受性の解明

(北海道大学環境健康科学研究教育センター 岸 玲子)

●妊娠期の PFASs・OH-PCB 曝露による次世代への甲状腺機能攪乱作用と生後の神経発達へ与える影響の解明

(北海道大学環境健康科学研究教育センター 伊藤 佐智子)

(平成 27 年度～平成 29 年度)

●発生-発達期における低用量の化学物質曝露による成熟後の神経行動毒性の誘発メカニズム解明と、その毒性学的評価系構築に資する研究

(東北大学大学院農学研究科 種村 健太郎)